

授業者支援会議の活用

授業や支援の全てに注目して授業改善するのではなく、授業者（主にMT）が困っていることを提示（オーダー）し、その観点について検討する。次回への具体的な支援を決め繰り返す手法を行う。
 今回は学校生活や授業中の生徒の見取りや、目標設定、支援方法を協議し実行する教師の姿の発表とする。

南魚沼市立総合支援学校 富所利弘

「作業学習で落ち着いて活動を続けるための支援」

昨年度末に陶芸の活動をしていたが、パニックになることがあった。スペースが狭いことや道具が多いこともあり、本人と他の生徒にも危険が及び可能性があった。活動内容や環境、支援方法を変えることで安心して活動ができ、作業学習への抵抗感を生み出さないようにする。

授業日 5/10（木）～ オーダー「校外での畑の活動が有効か」

授業者支援会議（授業後）

畑の作業は嫌いじゃないみたい。
 校外での活動は気分転換にもなるように落ち着いている。
 パニックになっても畑だと活動場所にスペースがあるので対応しやすい。
 周りの生徒への影響も少ないよね。教室や作業室と比べると。
 活動内容を事前に言ったほうが良いよね。作業班全体の指示より、個別に伝えた方が効果的かな。
 当日の朝に作業班の担当から話をしています。

-改善案-

- 畑の活動を続ける。
- 活動内容を当日の朝、個別に伝える。




授業日 6/5（火） オーダー「活動場所にはいない作業班の担当から作業内容を個別に説明する。」

授業者支援会議（授業後）

活動の後半、最後にパニックになる場合があるよね。
 活動の終わりが分かりにくいのでは？
 時間いっぱい、いろいろな作業をすると終わりを伝えることが難しいな。
 最初に決めた作業量が終わったら、終わりにしましょう。STがついて振り回りをしたり、のんびりしましょう。
 野菜の苗を持たせたとさうれしそうだったな。
 特別なアイテムを持たせてみようか。

-改善案-

- 作業内容が終わったら、時間が余っても終わりにする。個別に振り返りやノートを書く。
- 特別なアイテムを持たせて意欲を高める。



授業日 7/3（火）～ オーダー「特別な役割があることで落ち着いて活動できるか。」

授業者支援会議（授業後）

特別な道具を渡したとき、うれしそう表情だった。
 特別な感がうれしいみたい。
 ワゴンに乗って出発してしまえば落ち着いて活動できることが増えました。
 作業のときは良いけど学校生活の全てこのような対応をすることはどうかな。
 生徒が活動内容を聞きに来るようになった。
 毎時間のように、作業室でパニックを起こしている。今後作業学習への抵抗感も高まってしまうかも。それは避けたい。
 作業が終わって早くあがることはいいんだけど・・・特別扱いのような他の生徒への影響が心配。

-改善案-

- “特別な”道具を運ぶなど、役割を果たすように促す。



成果と課題

- ほぼ毎回校外で学習している。そのための移動の準備や道具の管理など、繰り返し同じ活動を行うので見通しがもちやすい。
- 生徒と教師を合わせて6～7名の小グループでの活動が有効なようだ。
- パニックがなくなった訳ではない。回数が減るように活動内容や学習環境、支援の方法を改善していく必要がある。

授業日 9/4（火）～ オーダー「夏休み明けに変化があるか。パニックが起きる場面を検証」

授業者支援会議（授業後）

7月から服薬の量が増えたが変化は特にない。クラスでも。
 作業の活動中はあまりない。
 ワゴンに乗る前や、活動後ワゴンから降りて作業室に行くまでの間にパニックが起こることがある。
 教師が個別に対応しているせいもあるかも。
 作業室にいるMTに“笑顔で報告”することで、最後までやることを決め、ルーティンにしてみましょう。
 作業の終わり方を意識してみましょう

-改善案-

- “笑顔で報告”することで活動の終わりの場面も安定しているようにする。




授業日 9/25（火）～ オーダー「授業の終わりは“笑顔で報告”が有効か」

授業者支援会議（授業後）

活動の終わりを毎回同じにすることで、最後まで見直しをもてるようになっていた。
 作業室に戻ってくると笑顔で「終わりました。」と報告してくれている。しかも毎回。
 あいさつの後は、落ち着いて作業ノートを書きながら振り返りができている。

-改善案-

- “笑顔で報告”することで活動の終わりの場面も安定している様子。定着するように繰り返す。



まとめ 10/10（水）

授業者支援会議（授業後）

「次は作業だ！」と、意欲的な声も。楽しい活動になっている様子。
 特別な〇〇を持ったり笑顔で報告したいするパワーが“快”の気持ちになっているみたい。
 “笑顔で報告”の後、ノートを書くのに時間がなくなり、STが「続きは給食の前の時間に書こう。」と急な変更を提案してもパニックがなかった。
 日常的にパニックを起こすことが多いせいか、距離をおく生徒もいる。関わってくれる生徒が作業班の中にあることで安定することもある。
 パニックになることもあるけど。
 畑の作業は生徒と教師で6～7人の活動。少ない人間と限定のされた空間。周りの調整が本人も周りの人もやりやすい。
 活動内容の変更にも強くなっているのでは。一度パニックになっても、個別に対応する時間があると、落ち着いて活動に参加できてきている。

成果と課題

- 生徒間のちょっとした関わりでパニックになり、学校を出発できないこともあったが、多くの時間で落ち着いて活動することができた。
- 作業学習に抵抗感をもつ様子はなく、意欲的に取り組んでいる。

授業者支援会議活用について

- 短時間でお互いの見立てを共有し、次回の改善案を立てることができた。
- 作業担当や担任など、立場の違いや生徒との関わりが違う職員で意見交換できたことが有効であった。
- オーダーを中心に議論するので、職員間の意識がまとまりやすい。
- オーダーを出す職員以外からも改善策がでるため負担がかたらない。